

今年から全員が平成生まれ 匠瑛市成人式



▲立派に司会を務めた
山下さん（左）と岩井さん



▲新成人を代表して
謝辞を述べる飯島さん

平成22年匠瑛市成人式が1月10日、市民ふれあいセンターで開催されました。今回成人を迎えるのは、平成元年4月2日から平成2年4月1日に生まれた443人で、当日は361人が出席しました。色鮮やかな着物やはかま、真新しいスーツに身を包んだ新成人たちは、近況報告などを行いながら仲間との再会を喜び合いました（＝上の写真）。

式典では、司会の山下早紀さん（中央）と岩井恵利奈さん（中央）の進行で、実行委員長の小川瑛利子さん（中央）が開式の言葉を述べ、続いて伊藤和美さん（共興）の



厳肅な雰囲気の中、国家を斉唱する新成人たち

指揮と岩井沙季さん（中央）の伴奏で国歌を斉唱しました。江波戸市長から式辞が述べられたあと、市からの記念品であるアルバムが高木賢さん（共興）に手渡され、来賓の方々から激励の祝辞が新成人へ送られました。意見発表は、木村あゆみさん（豊和）、渡辺広大さん（栄）、佐々木啓さん（豊栄）の3人、謝辞は飯島康仁さん（樺海）が述べ、最後に副実行委員長の小関菜都季さん（野田）の閉式の言葉で式典は終了しました。



新成人を祝うみこしも登場

先輩方の経験生かす

次世代を担うためにも若い視点で現実社会を鋭く見つめ、先輩方の経験から生まれた知恵や技の一つでも多く学び、生かして成長していきます。そして、いつ、どんなときでも物事の本質を見極め、自分自身を見失わないよう、多面的に自分を見つめ直し、感謝の気持ちを言葉で伝えられるような成人になれるよう精進します。



渡辺広大さん

家族や仲間へ感謝

大学で一人暮らしを経験し、家族という存在の大きさに気がきました。また、楽しいときも辛いときも、それを一緒に分かち合う仲間がいることが今の自分の励みになっています。これからは、自分が家族や仲間の支えとなれるよう、成人としての自覚や責任をしっかりと持ち、一步一步、歩いていきます。



佐々木 啓さん



木村あゆみさん

もたちに学校の楽しさを伝えられるような教師になります。

楽しさを伝えらるる教師に

意見発表

大自然の中で心地よい汗

八二中学生徒が里山整備体験



最後にはもちつきも行われました

生徒たちは、自然保護を目指す地元ボランティア団体「アルカディアの会」のメンバーらに教わりながら、竹を切ったり、落ちていた枯れ枝を集めたりするなど、森の手入れ方法について約2時間ほど体験。「木を切るのが大変だった」などと感想を話しながら、大自然の中で心地のよい汗を流しました。

市内大寺にあるアルカディアの里山で1月16日、八日市場第二中学校の1年生20人が里山整備を体験しました。これは中学校の総合学習の一環として地域の自然や環境について学ぼうと行われたものです。



のこぎりの使い方って難しいなあ

公設から民間へ

市養護老人ホーム瑞穂園

匝瑳市養護老人ホーム瑞穂園は現在、居宅で養護を受けることが困難な高齢者の措置施設として公設民営で運営していますが、さまざまな面で安定した運営を図るため、平成22年4月1日に社会福祉法人九十九里ホームへ譲渡することが決まりました。



設置・運営の引き継ぎに関する協定書を取り交わす
井上峰夫理事長（左）と江波戸市長

え、団子で川がきれいになるの？

豊栄小で環境学習



見て、こんなにいっぱい作ったよ

豊栄小学校で12月18日、社会科授業の一環としてEMつち団子づくりが行われ、5・6年生の児童約80人が参加しました。EMとは、もともと農業分野での土壌改良用として開発された「有用微生物群」のことで、最近では畜産や環境浄化など多くの分野で活用されています。児童たちは、

団子の作り方を教わると一斉に作業開始。材料を手で練りこんでうまく丸めながら、ソフトボールほどの大きさの団子を約千個作りました。なお、このEMつち団子は、じっくり陰干しした後、河川の水質浄化のため豊栄地区新の傍示戸川に放流される予定です。

年初めを飾る歌や踊り

寿大学新春芸能発表会

寿大学新春芸能発表会が1月15日に公民館で開催され、約100人が参加しました。

これは昨年6月にスタートした同大学の「生きがい講座」で、詩吟やカラオケ、舞踊、民謡、社交ダンスなどを学んだ受講生たちが、その練習の成果を発表する場となるもの。舞台上に登場した受講生たちが、練習の成果を見事に披露すると、指導してきた講師や他の受講生などから多くの拍手が送られました。



講師の岡田陽子さんを囲んでのカラオケ台唱